

全業種総合

回答企業数291企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 前期比悪化～

総合的業況判断DI値は、前期比15.1ポイント低下の▲23.0と悪化となった。

業種別での業況判断DI値は、不動産業が33.3ポイント上昇の0.0、飲食業が26.3ポイント上昇の▲10.5、運輸業が0.0ポイントの横ばいで30.0の結果となった。一方で、小売業が3.3ポイント低下の▲23.1、サービス業が26.2ポイント低下の▲26.2、製造業が27.3ポイント低下の▲36.4、卸売業31.0ポイント低下の▲31.0、建設業が34.5ポイント低下の▲25.9となり、上昇が2業種、横ばいが1業種、低下が5業種の結果となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料価格の上昇」125先、「売上の低迷・減少」96先、「利幅の縮小」79先、「人員不足」77先、「経費の増加」75先と上位を占めた。

前回調査比、「材料価格の上昇」88先増加、「売上の低迷・減少」が6先減少、「利幅の縮小」は2先増加、「人員不足」12先減少、「経費の増加」17先増加となった。他に、「その他(新型コロナウイルス感染症の影響)」は1先減少の10先となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が42先、前期比2先増加、設備投資実施予定割合は14.4%と前期比0.7%増加した。業種別では、不動産業(土地・建物)33.3%、サービス業(土地・建物・機械)21.4%、運輸業(土地・建物)20.0%、製造業(土地・機械)18.2%、建設業(建物・機械・その他)13.8%、卸売業(土地・建物・機械・その他)同率の13.8%の先が「予定あり」としており、小売業・飲食業は10%未満に留まった。

資金繰りDI値は、前回調査比8.6%低下の▲17.2とやや悪化傾向にあり、今期借入した企業は18.6%と前回調査時(24.7%)より6.1%低下となった。

来期の見通し

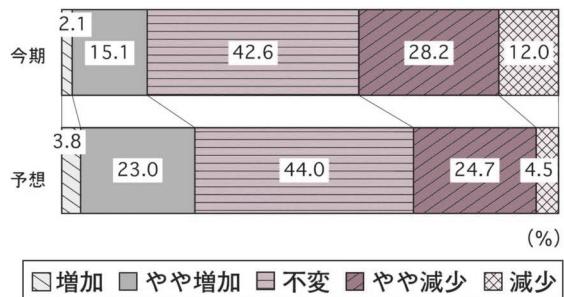
～総合的業況判断DI値 改善を予想～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比20.6ポイント上昇の▲2.4と改善の予想となった。

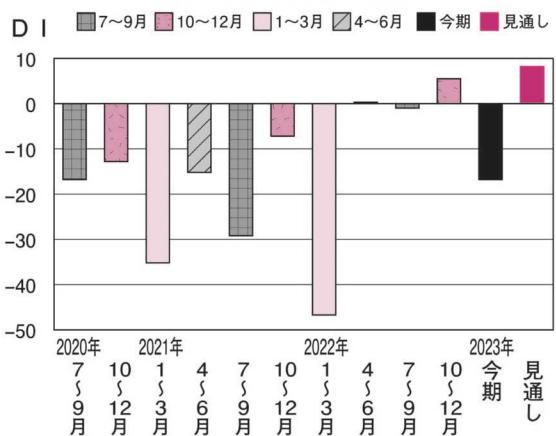
業種別では、製造業が45.5ポイント上昇の9.1、サービス業が35.7ポイント上昇の9.5、不動産業が33.3ポイント上昇の33.3、建設業が29.4ポイント上昇の3.5、卸売業が24.1ポイント上昇の▲6.9、飲食業が21.0ポイント上昇の10.5、小売業が0.0ポイントの横ばいで▲23.1、運輸業10.0ポイント低下の20.0と、来期の見通しは上昇が6業種、横ばいが1業種、低下が1業種となった。

今期資金手当した先が18.6%であったが、今後資金手当等借入を予定している先は19.9%となっている。

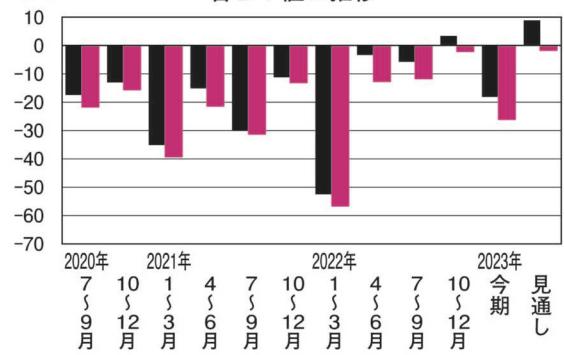
業況判断（全業種）



売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無

